

日本の白鳥 Nihon no Hakucho (Swans in Japan) (39) 10-12, 2016

<資料>諏訪湖のコハクチョウ飛来40周年記念誌(2014年2月)からの転載

諏訪湖のコハクチョウ飛来40周年にあたって

白田 正夫

393-0091 長野県諏訪郡下諏訪町星が丘第3 7035-25

諏訪湖白鳥の会・会長

昭和49年(1974年)11月11日諏訪湖に2羽のコハクチョウが飛来してから、早や40年の歳月が過ぎました。この間、冬の使者コハクチョウは多くの人々に感動とやすらぎを与えてくれるとともに、野生の鳥のたくましき等々教えてくれました。

この40年の間には護岸整備・湖周道路整備が進むとともに、ジョギングロードも設置されたり、また、平成24年末には横河川河口に「横河川白鳥橋」が架橋され諏訪湖を取り巻く環境が大きく変化してきました。

また、アオコの発生やヒシの繁茂等諏訪湖の環境改善が大きな課題となっています。これからも引き続きコハクチョウが飛来してきてくれるように、諏訪湖の水辺環境が良くなればと、改めて思うところです。

私ども諏訪湖白鳥の会としては、越冬するコハクチョウが自然に餌をとれるような、豊富な水辺環境を持つ湖の姿を望んでいますが、諏訪湖の水生植物等の現状から補足的に最小限の人工給餌をしながら見守っているところです。

数年前からは、鳥インフルエンザへの注意喚起が必要となり、野鳥と人との関わり方が問われています。

かつては、水辺に寄って来るコハクチョウたちに、何気なくパンなどの餌を与える光景も見られましたが、現在では、安易に餌を与えないように注意喚起する看板が立てられています。40年の節目に当たり、改めて野鳥と人との接し方を考えるようにしたいものであり、当会としてもこのために、できるだけ取り組みをしていきたいと思えます。また、諏訪(長野県)にとって貴重な自然である諏訪湖の環境について、コハクチョウの飛来を通じて考え活動していきたいと思っています。

眺望に優れた飛来地周辺は、横河川白鳥橋の開通と相まって春の桜・冬の白鳥・憩いの足湯等々岡谷市にとっての観光名所となり、多くの方々が訪れるようになりました。その中で微力ながら、コハクチョウの越冬を見守る当会の活動を続けてまいりたいと存じます。今般飛来40年の節目を記念して、40年間のあゆみを振りかえる「記

念写真展」及び日本野鳥の会諏訪会長林正敏氏による「記念講演会」を開催することといたしました。また、30周年記念誌に掲載された前会長増澤将浩氏による「30年のあゆみ」と、既刊の会報に掲載した会員の投稿記事も載せ、この記念誌を発行いたしました。終わりに、今日までコハクチョウたちを温かく見守り、粃・白米・野菜等の餌を提供され当会の活動を支援してくださっている、多くの皆様方に感謝申し上げます。

☆ 30周年記念誌「30年のあゆみ」から・・・

平成16年(2004年)5月、飛来30周年を記念して当会では記念誌を発行しました。当時の会長増澤将浩氏が、「30年のあゆみによせて」と題して、30年間の主な事項を次のよう振り返り、まとめられています。

①悲しいできごと

発足当時からコハクチョウに精通された林俊夫先生、事務局長の両角保雄さんにご指導と運営をお任せ願ってまいりましたが、この先輩お二人は残念ながら今は故人となられており、長年のご指導とご苦勞に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

②初飛来からその後

以前の会報を拝見しますと、初飛来が確認された昭和49年11月から50年4月まで2羽が越冬し、滞在日数142日と記録されております。それ以来、諏訪湖を忘れることなく毎年飛来し、12シーズン目の昭和60年10月～61年3月、それ以降は100羽を超えて増加してきました。

そんななか、往来に変化があり、安曇野豊科町との往来は20年になり、茅野市地籍上川とは10年になるようで、今では諏訪湖への飛来数をはるかに上回る数になっております。

③湖畔の環境整備

諏訪建設事務所で湖岸整備事業施行にあたり、コハクチョウや水鳥たちの滞在に格別なご配慮をいただき「中洲・人工なぎさ・消波堤」の工事に合わせ餌になる植栽等、良い環境づくりに努めていただきました。また、岡谷市ご当局におきましては湖畔公園整備等々のなかで「水辺の生物と人との共生・共存と交流の湖畔なぎさ」として、水鳥に配慮した再自然工法を採用していただき感謝申し上げます。

④諏訪湖での銃猟禁止の実現

日本野鳥の会諏訪支部等と共同で諏訪湖での銃猟禁止を求める陳情を長野県へ提出しました。平成7年2月関係者の検討会が開かれ向後10年間(平成17年10月31日まで)諏訪湖水面一円で銃猟禁止が決定され、諏訪湖で越冬する水鳥たちが安

心して滞在できることになりました。これは長年の懸案事項であり画期的なことでありました。

⑤諏訪湖で白鳥の鉛中毒死多発

諏訪湖で舟釣りや氷上での穴釣りは楽しいものです。何気なく捨てられた釣り糸が体や足に巻き付いたり、釣り錘を水鳥たちは餌と一緒に飲み込んで鉛中毒などになる事例が平成6年～10年頃特に多発しました。

こうした事故防止のため、日本野鳥の会諏訪支部と諏訪湖白鳥の会では「諏訪湖に釣り糸を捨てないで」キャンペーンを計画し、チラシ等により協力を呼びかけました。今後も事故防止のため釣り糸等を捨てないようご協力をお願いするものであります。

⑥餌の提供

毎年の事ではありますが、白鳥たちの餌につきましては、大勢の方々の善意で心配していただき、お届けいただいております。

お蔭様で大変助かっており、深く感謝いたし厚く御礼申し上げますとともに、今後ともよろしく願いいたします。

⑦終わりに

越冬期間中はコハクチョウのほかカモ等の水鳥や野鳥が数多く飛来しており、横河川河口付近は家族連れで餌を与える人、写真愛好家、遠方からの観光客等大勢の方々が連日見学に訪れ、にぎやかです。「コーコー」と鳴く冬の妖精コハクチョウたちは、かけがえのない地球の宝です。生命です。これからも、優しく良い環境で過ごせるよう見守っていただきたいと思えます。

【以上「30年のあゆみ」から】



北帰行を前に最後の給餌をする会員（25.3.11）